

KSプロジェクト（2017～2020）

新城門プロジェクト 国公立医学部入試数学講座

Vol②



新モンゴル小中高一貫学校&海城中学高等学校 共同講座

はじめに

昨年11月に開講した「新城門プロジェクト」も第2クールに入ります。

このクールでは、理系数学の最重要項目である「微分積分」の準備も兼ねて、

“三角比・三角関数”，“指数関数・対数関数”，“数列”

といったトピックを、また第3クールで登場する本格的な図形問題へのトライアルとして

“平面ベクトル”

をそれぞれ学習します。これらのトピックは、

“得意でなければ、国立医学部合格は到底望めない”

というべき大変重要な箇所です。第1クール以上に、添削問題に熱心に取り組むなど、

充実した学習が望まれます。

(予定)

⑧～⑩の日程は6月7日の授業時にお知らせする予定です

回・実施時期	⑥5月10日	⑦6月7日	⑧9月	⑨10月	⑩10月下旬
テーマ	三角比・三角関数 指数・対数関数	数列	図形 と方程式	平面ベクトル	新城門 数学模試②
担当者	川崎真澄	村山雅之	平山裕之	中村哲也	
イベント	医学部受験 作戦講話①	医療ディス カッション	医療ディス カッション	医学部受験 作戦講話	模試解説

このクールから添削問題の提出を授業後1週間以内としますので以下のような学習サイクルとなります：

例えば6回目の「三角比・三角関数」についてなら、

1. 基本問題を解く
- ☞ 2. 練習問題を予習する
- ☞ 3. 講座に出席する
- ☞ 4. 講座の復習する
- ☞ 5. 添削問題に取り組み、担当の先生に提出する
- ☞ 6. 添削問題の復習をする

ともあれ、第1クール以上に実り豊かな楽しい講座にしましょう。

※なお、海城の生徒は（このプロジェクトが実施されない）7月もしくは8月に補講を実施します。詳細は6月7日の講座でお知らせします。

新城門プロジェクト(第6回) ☆第5回は新城門数学模試①

テーマ:三角比・三角関数・指数関数・対数関数

§1. 基本問題(自習用)

【1】

- (1) $0 \leq x \leq 2\pi$ として, 方程式 $6\sin^2 x + 5\cos x - 2 = 0$ を解け.
(2) $-\pi \leq \theta < \pi$ として, 方程式 $1 + \cos \theta + \cos 2\theta = 0$ を解け.

【2】

$0 \leq \theta < 2\pi$ の範囲で, 次の不等式を解け.

- (1) $\cos \theta < \frac{1}{2}$ (2) $\sin\left(\theta - \frac{\pi}{3}\right) > -\frac{1}{2}$

【3】

$f(x) = \sin x - \cos 2x$ の $0 \leq x \leq \pi$ における最大値, 最小値を求めよ.

【4】

$0 \leq x < 2\pi$ として, 不等式 $\sin 3x \geq \sin x$ を解け.

【5】

不等式 $\cos 2x + 2a\sin x - a - 2 < 0$ が任意の実数 x について成り立つような a の値の範囲を求めよ.

【6】

直線 $x - 3y + 6 = 0$ とのなす角が 45° で, 点 $(9, 3)$ を通る直線の方程式を求めよ.

【7】

関数 $y = \sin^2 x + 4\sin x \cos x + 5\cos^2 x$ の最大値と最小値を求めよ.

【8】

半径1の円に内接する正五角形ABCDEを考える. また, $\alpha = \frac{2}{5}\pi$ とおく.

- (1) $\sin 3\alpha + \sin 2\alpha = 0$ が成り立つことを示せ.
(2) $\cos \alpha$ の値を求めよ.
(3) 線分ACの長さを求めよ.

【9】

次の方程式を解け.

(1) $8^x - 4^x - 2^{x+1} + 2 = 0$

(2) $\log_2(x+1) + \log_4(4-x) = 2$

【10】

$x \geq 10$, $y \geq 10$, $xy = 10^3$ のとき, 次の各式の最大値と最小値を求めよ. またそのときの x , y の値を求めよ.

(1) $(\log_{10}x)(\log_{10}y)$

(2) $\log_x y$

【11】

$a > 0$, $a \neq 1$ とする. このとき, x の不等式

$$\log_a(x+2) \geq \log_{a^2}(3x+16)$$

を解け.

【12】

$a^2 < b < a < 1$ であるとき,

$$\log_a b, \log_b a, \log_a \frac{a}{b}, \log_b \frac{b}{a}, \frac{1}{2}$$

を大小の順に並べよ.

【13】

0でない4つの数 a , b , c , d に対し,

$$\left(\frac{3}{4}\right)^a = \left(\frac{5}{3}\right)^b = \left(\frac{6}{5}\right)^c = \left(\frac{3}{2}\right)^d$$

が成り立つとき,

$$\frac{1}{a} + \frac{1}{b} + \frac{1}{c} = \frac{1}{d}$$

となることを示せ.

【14】

5^{105} は何桁の整数であり, その最高位の数字は何か求めよ. また, $\left(\frac{1}{5}\right)^{105}$ は小数第何位に初めて0でない数が現れるか求めよ. ただし, $\log_{10}2 = 0.3010$, $\log_{10}3 = 0.4771$ とする.

§ 2. 練習用問題

【1】

$b = \frac{1}{4}(a^2 - 2a - 3), c = \frac{1}{4}(a^2 + 3)$ の関係があるとき,

- (1) a, b, c が三角形の三辺の長さとなるための条件を求めよ.
- (2) 最大角を求めよ.

【2】

$y = \frac{3\sin\theta - \cos\theta}{2 + \sin\theta + \cos\theta}$ の最大値, 最小値を求めよ.

【3】

$x > 0$ とする. 座標平面上の3点 $A(0, 1), B(0, 2), P(x, x)$ をとる. x の値が変化するとき,
 $\angle APB$ の最大値を求めよ.

【4】

領域 $\log_x y \leq \log_y x$ を図示せよ.

§ 3. 添削用問題

【1】

$f(\theta) = \sqrt{3} \sin 2\theta - \cos 2\theta + \sqrt{3} \sin \theta + \cos \theta$ とする.

- (1) $x = \sqrt{3} \sin \theta + \cos \theta$ とするとき, $f(\theta)$ を x で表せ.
- (2) $f(\theta)$ の最大値を求めよ. また, そのときの θ を求めよ.

【2】

すべての実数 x に対して, 不等式 $2^{2x+2} + 2^x a + 1 - a > 0$ が成り立つような実数 a の範囲を求めよ.

<基本問題の解答と解説>

【1】

$$(1) \sin^2 x = 1 - \cos^2 x \text{ より } -6\cos^2 x + 5\cos x + 4 = 0 \quad (3\cos x - 4)(2\cos x + 1) = 0$$

$$-1 \leq \cos x \leq 1 \text{ に注意して, } \cos x = -\frac{1}{2} \quad 0 \leq x < 2\pi \text{ より, } x = \frac{2}{3}\pi, \frac{4}{3}\pi$$

$$(2) \cos 2\theta = 2\cos^2 \theta - 1 \text{ より } 2\cos^2 \theta + \cos \theta = 0 \quad \cos \theta (2\cos \theta + 1) = 0$$

$$\cos \theta = 0, \quad -\frac{1}{2} \quad -\pi \leq \theta < \pi \text{ より, } \theta = \pm \frac{1}{2}\pi, \pm \frac{2}{3}\pi$$

【2】

$$(1) \frac{\pi}{3} < \theta < \frac{5}{3}\pi$$

$$(2) -\frac{\pi}{3} \leq \theta - \frac{\pi}{3} < \frac{5}{3}\pi \text{ で, } \sin\left(\theta - \frac{\pi}{3}\right) > -\frac{1}{2} \text{ を満たす } \theta - \frac{\pi}{3} \text{ は, } -\frac{\pi}{6} < \theta - \frac{\pi}{3} < \frac{7}{6}\pi$$

$$\text{よって, } \frac{\pi}{6} < \theta < \frac{3}{2}\pi$$

【3】

$$f(x) = \sin x - \cos 2x = \sin x - (1 - 2\sin^2 x) = 2\sin^2 x + \sin x - 1$$

$$\sin x = t \text{ とおくと, } 0 \leq x \leq \pi \text{ より } 0 \leq t \leq 1 \text{ であり, } f(x) = 2t^2 + t - 1 = 2\left(t + \frac{1}{4}\right)^2 - \frac{9}{8}$$

よって, $f(x)$ は, $t=1$ のとき最大値2をとり, $t=0$ のとき最小値-1をとる.

【4】

$\sin 3x = 3\sin x - 4\sin^3 x$ であるから, 不等式は $3\sin x - 4\sin^3 x \geq \sin x$ となる. 式変形して,
 $2\sin x - 4\sin^3 x \geq 0 \quad \sin x(1 - 2\sin^2 x) \geq 0$

$$\text{これより, } \sin x \leq -\frac{1}{\sqrt{2}}, \quad 0 \leq \sin x \leq \frac{1}{\sqrt{2}}$$

したがって, $0 \leq x < 2\pi$ において, 解は, $0 \leq x \leq \frac{\pi}{4}, \quad \frac{3}{4}\pi \leq x \leq \pi, \quad \frac{5}{4}\pi \leq x \leq \frac{7}{4}\pi$

【5】

$\sin x = t$ とおく. $-1 \leq t \leq 1$

$\cos 2x = 1 - 2\sin^2 x$ であるから, $\cos 2x + 2a\sin x - a - 2 = 1 - 2t^2 + 2at - a - 2$ である.

この右辺を $f(t)$ とおく. $-1 \leq t \leq 1$ において, つねに $f(t) < 0$ となる条件,

すなわち, $-1 \leq t \leq 1$ における $f(t)$ の最大値が負となる条件を求めればよい.

$$f(t) = -2t^2 + 2at - a - 1 = -2\left(t - \frac{a}{2}\right)^2 + \frac{1}{2}a^2 - a - 1$$

$\frac{a}{2} < -1$, すなわち $a < -2$ のとき $-1 \leq t \leq 1$ における $f(t)$ の最大値は, $f(-1) = -3a - 3$

であるから, $a < -2$ のとき, 最大値は正であり, 不適.

$-1 \leq \frac{a}{2} \leq 1$. すなわち $-2 \leq a \leq 2$ のとき $-1 \leq t \leq 1$ における $f(t)$ の最大値は

$$f\left(\frac{a}{2}\right) = \frac{1}{2}a^2 - a - 1$$

よって, 条件は, $a^2 - 2a - 2 < 0$ となり, これを解いて, $1 - \sqrt{3} < a < 1 + \sqrt{3}$

$-2 \leq a \leq 2$ とあわせて, $1 - \sqrt{3} < a \leq 2$

$\frac{a}{2} > 1$, すなわち $a > 2$ のとき $-1 \leq t \leq 1$ における $f(t)$ の最大値は, $f(1) = a - 3$

よって, 条件は, $a - 3 < 0$ となり, これを解いて, $a < 3$ $a > 2$ とあわせて, $2 < a < 3$

以上まとめて, 求める a の値の範囲は, $1 - \sqrt{3} < a < 3$

【6】

直線 $x - 3y + 6 = 0$ は傾き $\frac{1}{3}$ の直線で, この直線が x 軸となす角を α とすると, $\tan \alpha = \frac{1}{3}$

求める直線が x 軸となす角は, $\alpha \pm 45^\circ$ であるから, その傾きは,

$$\tan(\alpha \pm 45^\circ) = \frac{\tan \alpha \pm \tan 45^\circ}{1 \mp \tan \alpha \tan 45^\circ} \quad (\text{複号同順}) \quad \text{で,}$$

$$\frac{\frac{1}{3} + 1}{1 - \frac{1}{3}} = 2 \quad \frac{\frac{1}{3} - 1}{1 + \frac{1}{3}} = -\frac{1}{2} \quad \text{ゆえ, 求める直線の方程式は, } y = 2(x - 9) + 3, \quad y = -\frac{1}{2}(x - 9) + 3$$

すなわち $y = 2x - 15$, $y = -\frac{1}{2}x + \frac{15}{2}$

【7】

$$2\sin x \cos x = \sin 2x \quad \cos^2 x - \sin^2 x = \cos 2x \quad \text{であるから,}$$

$$y = 4\sin x \cos x + 3 + 2\cos^2 x - 2\sin^2 x = 3 + 2\sin 2x + 2\cos 2x$$

$$\text{さらに合成して, } y = 3 + 2\sqrt{2} \sin\left(2x + \frac{\pi}{4}\right)$$

$$\text{ここで, } 2x + \frac{\pi}{4} \text{ は任意の値をとるので, } -1 \leq \sin\left(2x + \frac{\pi}{4}\right) \leq 1 \text{ であり,}$$

$$\text{最大値 } 3 + 2\sqrt{2}, \text{ 最小値 } 3 - 2\sqrt{2}$$

【8】

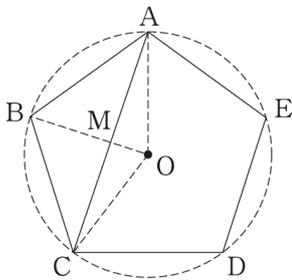
$$(1) \quad \alpha = \frac{2}{5}\pi \text{ より, } 3\alpha = 2\pi - 2\alpha \text{ であるから, } \sin 3\alpha + \sin 2\alpha = -\sin 2\alpha + \sin 2\alpha = 0$$

$$(2) \quad \sin 3\alpha = 3\sin \alpha - 4\sin^3 \alpha \quad \sin 2\alpha = 2\sin \alpha \cos \alpha \text{ であるから, (1) より,}$$
$$3\sin \alpha - 4\sin^3 \alpha + 2\sin \alpha \cos \alpha = 0$$

$$\sin \alpha \neq 0 \text{ に注意して, } 3 - 4(1 - \cos^2 \alpha) + 2\cos \alpha = 0 \quad 4\cos^2 \alpha + 2\cos \alpha - 1 = 0$$

$$\alpha \text{ は鋭角より, } \cos \alpha > 0 \text{ であるから, } \cos \alpha = \frac{-1 + \sqrt{5}}{4}$$

(3)



図のように、円の中心をOとし、線分ACの中点をMとする。 $\angle AOM = \frac{2}{5}\pi = \alpha$ 、 $OM \perp AC$

であるから、 $AM = AO \sin \alpha = \sin \alpha$

$$\text{よって, } AC = 2\sin \alpha = 2\sqrt{1 - \cos^2 \alpha} = \frac{1}{2}\sqrt{16 - (-1 + \sqrt{5})^2} = \frac{1}{2}\sqrt{10 + 2\sqrt{5}}$$

【9】

$$(1) \quad 8^x - 4^x - 2^{x+1} + 2 = 0 \Leftrightarrow (2^3)^x - (2^2)^x - 2^x \cdot 2^1 + 2 = 0 \Leftrightarrow (2^x)^3 - (2^x)^2 - 2 \cdot 2^x + 2 = 0$$

$$\Leftrightarrow t^3 - t^2 - 2t + 2 = 0 \quad (\text{ただし } t = 2^x) \Leftrightarrow t^2(t-1) - 2(t-1) = 0 \Leftrightarrow (t-1)(t^2-2) = 0$$

$$\Leftrightarrow (t-1)(t+\sqrt{2})(t-\sqrt{2}) = 0 \Leftrightarrow t = 1, \sqrt{2} \quad (t = 2^x > 0 \text{ より}) \Leftrightarrow 2^x = 2^0, 2^{\frac{1}{2}}$$

$$\text{よって } x = 0, \frac{1}{2}$$

$$(2) \quad \log_2(x+1) + \log_4(4-x) = 2 \quad \dots\dots(*)$$

真数条件より $x+1 > 0$ かつ $4-x > 0$

$$\text{つまり } -1 < x < 4 \quad \dots\dots\textcircled{1}$$

\textcircled{1} のもとで (*) は

$$\frac{\log_4(x+1)}{\log_4 2} + \log_4(4-x) = \log_4 16 \Leftrightarrow 2\log_4(x+1) + \log_4(4-x) = \log_4 16$$

$$\Leftrightarrow \log_4(x+1)^2(4-x) = \log_4 16 \Leftrightarrow (x+1)^2(4-x) = 16 \Leftrightarrow x^3 - 2x^2 - 7x + 12 = 0$$

$$\Leftrightarrow (x-3)(x^2+x-4) = 0 \Leftrightarrow x = 3, \frac{-1 \pm \sqrt{17}}{2}$$

$$\textcircled{1} \text{ と合わせて } x = 3, \frac{-1 + \sqrt{17}}{2}$$

【10】

$$x \geq 10, y \geq 10, xy = 10^3 \text{ より, } \begin{cases} \log_{10} x \geq \log_{10} 10 \\ \log_{10} y \geq \log_{10} 10 \\ \log_{10} xy \geq \log_{10} 10^3 \end{cases} \text{ つまり, } \begin{cases} \log_{10} x \geq 1 \\ \log_{10} y \geq 1 \\ \log_{10} x + \log_{10} y = 3 \end{cases}$$

$$\text{だから, } X = \log_{10} x, Y = \log_{10} y \text{ とおくと, } \begin{cases} X \geq 1 \\ Y \geq 1 \\ X + Y = 3 \end{cases} \text{ である.}$$

$$(1) \quad (\log_{10} x)(\log_{10} y) = XY = X(3-X) = -\left(X - \frac{3}{2}\right)^2 + \frac{9}{4}$$

X の範囲は, $X \geq 1$ かつ $3-X \geq 1$ より $1 \leq X \leq 2$ であるから, $-\left(X - \frac{3}{2}\right)^2 + \frac{9}{4}$ は $X = \frac{3}{2}$ のとき最

大値 $\frac{9}{4}$ をとり, $X = 1, 2$ のとき最小値 2 をとる.

以上より, $(\log_{10} x)(\log_{10} y)$ は,

$$\begin{cases} (x, y) = (10\sqrt{10}, 10\sqrt{10}) \text{ のとき最大値 } \frac{9}{4} \\ (x, y) = (10, 10^2), (10^2, 10) \text{ のとき最小値 } 2 \end{cases}$$

$$(2) \log_x y = \frac{\log_{10} y}{\log_{10} x} = \frac{Y}{X} = \frac{3-X}{X} = \frac{3}{X} - 1$$

X の範囲は、 $1 \leq X \leq 2$ であるから、 $\frac{3}{X} - 1$ は $X=1$ のとき最大値2をとり、 $X=2$ のとき最小値 $\frac{1}{2}$ をとる。

$$\text{以上より、} \log_x y \text{は、} \begin{cases} (x, y) = (10, 10^2) \text{のとき最大値 } 2 \\ (x, y) = (10^2, 10) \text{のとき最小値 } \frac{1}{2} \end{cases}$$

【11】

$$\log_a(x+2) \geq \log_{a^2}(3x+16)$$

真数条件より、 $x+2 > 0$ かつ $3x+16 > 0$ つまり、 $x > -2$ ……①

①のもとで、

$$\log_a(x+2) \geq \log_{a^2}(3x+16) \Leftrightarrow \log_a(x+2) \geq \frac{\log_a(3x+16)}{\log_a a^2} \Leftrightarrow 2\log_a(x+2) \geq \log_a(3x+16)$$

$$\Leftrightarrow \log_a(x+2)^2 \geq \log_a(3x+16) \quad \dots\dots(*)$$

$$(i) \quad a > 1 \text{のとき、} (*) \Leftrightarrow (x+2)^2 \geq 3x+16 \Leftrightarrow x^2 + x - 12 \geq 0 \Leftrightarrow x \leq -4, \quad x \geq 3$$

$$\text{①との共通部分をとって、} \quad x \geq 3$$

$$(ii) \quad 0 < a < 1 \text{のとき、} (*) \Leftrightarrow (x+2)^2 \leq 3x+16 \Leftrightarrow x^2 + x - 12 \leq 0 \Leftrightarrow -4 \leq x \leq 3$$

$$\text{①との共通部分をとって、} \quad -2 < x \leq 3$$

$$\text{以上(i)と(ii)より、} \begin{cases} x \geq 3 & (a > 1 \text{のとき}) \\ -2 < x \leq 3 & (0 < a < 1 \text{のとき}) \end{cases}$$

【12】

$$a^2 < b < a < 1 \text{より、} \log_a a^2 > \log_a b > \log_a a > \log_a 1$$

つまり、 $(0 <) 1 < \log_a b < 2$ だから、 $x = \log_a b$ とおくと、 $1 < x < 2$

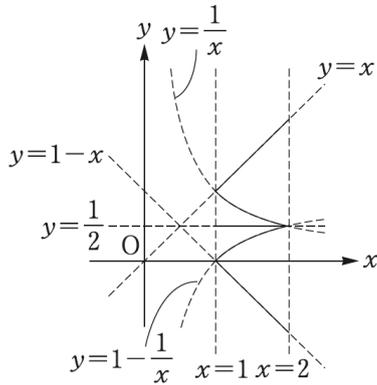
$$\text{また、} \log_b a = \frac{\log_a a}{\log_a b} = \frac{1}{x}$$

$$\log_a \frac{a}{b} = \log_a a - \log_a b = 1 - x$$

$$\log_b \frac{b}{a} = \log_b b - \log_b a = 1 - \frac{1}{x}$$

だから、 $\log_a b$, $\log_b a$, $\log_a \frac{a}{b}$, $\log_b \frac{b}{a}$, $\frac{1}{2}$ の大小は、 $1 < x < 2$ の範囲での

x , $\frac{1}{x}$, $1-x$, $1-\frac{1}{x}$, $\frac{1}{2}$ の大小を調べればよい。それぞれのグラフは次のようになる。



$1 < x < 2$ の範囲で $1-x < 1-\frac{1}{x} < \frac{1}{2} < \frac{1}{x} < x$ だから, $\log_a \frac{a}{b} < \log_b \frac{b}{a} < \frac{1}{2} < \log_b a < \log_a b$

【13】

$\left(\frac{3}{4}\right)^a = \left(\frac{5}{3}\right)^b = \left(\frac{6}{5}\right)^c = \left(\frac{3}{2}\right)^d = 10^k$ とおくと, 常用対数をとって,

$$\log_{10} \left(\frac{3}{4}\right)^a = k, \quad \log_{10} \left(\frac{5}{3}\right)^b = k, \quad \log_{10} \left(\frac{6}{5}\right)^c = k, \quad \log_{10} \left(\frac{3}{2}\right)^d = k$$

つまり, $a = \frac{k}{\log_{10} \frac{3}{4}}, \quad b = \frac{k}{\log_{10} \frac{5}{3}}, \quad c = \frac{k}{\log_{10} \frac{6}{5}}, \quad d = \frac{k}{\log_{10} \frac{3}{2}}$

だから,

$$\begin{aligned} \frac{1}{a} + \frac{1}{b} + \frac{1}{c} &= \frac{\log_{10} \frac{3}{4}}{k} + \frac{\log_{10} \frac{5}{3}}{k} + \frac{\log_{10} \frac{6}{5}}{k} \\ &= \frac{\log_{10} 3 - \log_{10} 4 + \log_{10} 5 - \log_{10} 3 + \log_{10} 6 - \log_{10} 5}{k} \\ &= \frac{\log_{10} \frac{6}{4}}{k} = \frac{\log_{10} \frac{3}{2}}{k} \end{aligned}$$

また, $\frac{1}{d} = \frac{\log_{10} \frac{3}{2}}{k}$ であるから, $\frac{1}{a} + \frac{1}{b} + \frac{1}{c} = \frac{1}{d}$ が成り立つ.

【14】

$A=5^{105}$ とおくと,

$$\log_{10}A = 105 \log_{10}5 = 105 \log_{10} \frac{10}{2} = 105(\log_{10}10 - \log_{10}2) = 105(1 - 0.3010) = 73.395 \text{ より,}$$

$$A = 10^{73.395}$$

だから, $10^{73} < A < 10^{74}$ を満たす. よって, A は74桁の整数である.

また, $A = 10^{0.395} \cdot 10^{73}$ より A の最高位の数字は $10^{0.395}$ の1の位の数字である.

$\log_{10}2 < 0.395 < \log_{10}3$ より, $2 < 10^{0.395} < 3$ であるから, A の最高位の数字は2である.

次に, $B = \left(\frac{1}{5}\right)^{105}$ とおくと,

$$\log_{10}B = 105 \log_{10} \frac{1}{5} = 105(-\log_{10}5) = -73.395 \text{ より,}$$

$B = 10^{-73.395}$ だから, $10^{-74} < B < 10^{-73}$ を満たす.

よって, B は小数第74位に初めて0でない数が現れる.

新城門プロジェクト(第7回)

テーマ:数列

§ 1. 基本問題(自習用)

【1】

等差数列 $\{a_n\}$ において、その第3項が8、第7項が20である。このとき、初項は \square 、公差は \square であり、一般項を a_n とすると、 $\sum_{k=1}^{20} a_k = \square$ である。

【2】

第2項が12、第5項が768となる公比が実数の等比数列 $\{a_n\}$ の一般項は \square 、初項から第 n 項までの和は \square である。

【3】

ある等差数列の第 n 項を a_n とすると、

$$a_{10} + a_{11} + a_{12} + a_{13} + a_{14} = 365, \quad a_{15} + a_{17} + a_{19} = -6$$

が成立している。このとき、次の問いに答えよ。

- (1) この等差数列の初項と公差を求めよ。
- (2) この等差数列の初項から第 n 項までの和を S_n とすると、 S_n の最大値を求めよ。

【4】

4つの数 $x, 2x-5, y, z$ がこの順で等差数列になっている。次の問いに答えよ。

- (1) y および z をそれぞれ x を用いて表せ。
- (2) x を0でない数とする。 x, y, z がこの順で等比数列になっているとき、 x の値をすべて求めよ。

【5】

奇数の数列 $1, 3, 5, \dots$ を、第 n 群が n 個の奇数を含むように分ける。

$$\{1\}, \{3, 5\}, \{7, 9, 11\}, \{13, 15, 17, 19\}, \dots$$

- (1) 第10群の最初の数を求めよ。
- (2) 第8群の数の和を求めよ。
- (3) 999は第何群の第何番目の数であるか。

【6】

数列 $1, \frac{2}{3}, \frac{3}{3^2}, \frac{4}{3^3}, \dots$ の第 n 項までの和を求めよ。

【7】

次の和を計算せよ. $\sum_{k=1}^n \frac{2}{\sqrt{k} + \sqrt{k+1}}$

【8】

$\sum_{k=1}^n (k^2 + 2k + 3)$ を計算せよ.

【9】

$1^2 - 2^2 + 3^2 - 4^2 + \cdots + (2n-1)^2 - (2n)^2$ を求めよ.

【10】

$1 \cdot N + 2 \cdot (N-1) + 3 \cdot (N-2) + \cdots + N \cdot 1$ を求めよ.

【11】

$\{a_n\}$, $\{b_n\}$ はともに初項が6, 第2項が3, 第3項が2の数列である.

(1) $c_n = a_{n+1} - a_n$ ($n=1, 2, 3, \dots$) とおく. 数列 $\{c_n\}$ が等差数列であるとき, a_n を求めよ.

(2) $d_n = b_{n+1} - b_n$ ($n=1, 2, 3, \dots$) とおく. 数列 $\{d_n\}$ が等比数列であるとき, b_n を求めよ.

【12】

数列 $\{a_n\}$ の初項から第 n 項までの和 S_n が

$$S_n = n^3 + 6n^2 + 11n \quad (n=1, 2, 3, \dots)$$

のとき,

(1) a_n を n の式で表せ.

(2) $\sum_{k=1}^n \frac{1}{a_k}$ を n の式で表せ.

【13】

$a_1 = 1$, $a_{n+1} = a_n + 2^n - 2n$ ($n=1, 2, 3, \dots$) で定義される数列の一般項 a_n を求めよ.

【14】

$a_1 = 2$, $a_{n+1} = 4a_n + 3$ ($n=1, 2, 3, \dots$) により定められた数列の一般項を求めよ.

【15】

$a_1=1, a_2=1, a_{n+2}=5a_{n+1}-6a_n$ ($n=1, 2, 3, \dots$)で定義される数列 $\{a_n\}$ について,

- (1) 数列 $\{a_{n+1}-2a_n\}$ ($n=1, 2, 3, \dots$)の一般項を n で表せ.
- (2) 数列 $\{a_n\}$ の一般項を n で表せ.

【16】

$a_1 = \frac{1}{3}, a_{n+1} = \frac{1}{2-a_n}$ ($n=1, 2, 3, \dots$)で定義される数列 $\{a_n\}$ について,

- (1) a_2, a_3, a_4 を求めよ.
- (2) a_n を表す n の式を推定し, それが正しいことを数学的帰納法により証明せよ.

【17】

$$\text{等式} \quad 1 \cdot 1 + 2 \cdot 2 + 3 \cdot 2^2 + \dots + n \cdot 2^{n-1} = (n-1) \cdot 2^n + 1$$

が成り立つことを数学的帰納法により証明せよ.

【18】

すべての自然数 n について, 次の不等式が成り立つことを示せ.

$$1 + \frac{1}{2} + \frac{1}{3} + \dots + \frac{1}{n} \geq \frac{2n}{n+1}$$

§ 2. 練習用問題

【1】

自然数 n に対して、 $x \geq 0$, $y \geq 0$, $2x + y \leq n$ を満たす整数 x , y の組 (x, y) の個数を a_n として、数列 $\{a_n\}$ をつくる。この数列の一般項 a_n を求めよ。

【2】

$(x+1)(x+2)(x+3) \cdots (x+n)$ の展開式について、次の問いに答えよ。ただし、 n は2以上の整数とする。

- (1) x^{n-1} の係数を求めよ。
- (2) x^{n-2} の係数を求めよ。

【3】

数列 $\{a_n\}$ の初項から第 n 項までの和 S_n が、

$$S_n = -a_n + 3n \quad (n=1, 2, 3, \dots)$$

と表されている。

- (1) 初項 a_1 を求めよ。
- (2) $n \geq 2$ のとき、 a_n と a_{n-1} との間に成り立つ関係式を求めよ。
- (3) 一般項 a_n を求めよ。

【4】

n が自然数のとき、 $11^{n+1} + 12^{2n-1}$ は19で割り切れることを示せ。

§ 3. 添削用問題

【1】

数列 $\{a_n\}$ の初項から第 n 項までの和 S_n は次の条件を満たすとする.

$$S_1=1, S_{n+1}-3S_n=2^{n+1}-1 \quad (n=1, 2, 3, \dots)$$

- (1) 数列 $\{a_n\}$ の満たす漸化式を求めよ.
- (2) $b_n = \frac{a_n}{2^n}$ とおくとき, 数列 $\{b_n\}$ の一般項を求めよ.
- (3) a_{100} を4で割ったときの余りを求めよ.

【2】

正の整数からなる数列 $\{a_n\}$ が $n=1, 2, 3, \dots$ に対して,

$$n\left(\frac{1}{a_n} + \frac{1}{a_{n+1}}\right) < 2, \quad 2 + \frac{1}{a_{n+1}} < (n+1)\left(\frac{1}{a_n} + \frac{1}{a_{n+1}}\right)$$

を満たし, かつ $a_2=2$ とする. このとき, 次の問いに答えよ.

- (1) a_1 を求めよ.
- (2) a_3 を求めよ.
- (3) 一般項 a_n を推定し, それが正しいことを証明せよ.

<基本問題の解答と解説>

【1】

求める等差数列 $\{a_n\}$ の初項を a 、公差を d とすると、 $a_n = a + (n-1)d$ であるから、 $a_3 = 8$ 、 $a_7 = 20$ より、

$$\begin{cases} a_3 = a + 2d = 8 & \wedge \wedge \textcircled{1} \\ a_7 = a + 6d = 20 & \wedge \wedge \textcircled{2} \end{cases}$$

①、②を連立して解くと、

$$a = 2, \quad d = 3$$

である。よって、数列 $\{a_n\}$ の初項は2、公差は3である。

さらにこのとき、 $a_n = 3n - 1$ であるから、 $\sum_{k=1}^{20} a_k = \frac{20(a_1 + a_{20})}{2} = \frac{20(2 + 59)}{2} = 610$

【2】

求める等比数列 $\{a_n\}$ の一般項を、 $a_n = ar^{n-1}$ とおくと、 $a_2 = 12$ 、 $a_5 = 768$ より

$$\begin{cases} a_2 = ar = 12 \\ a_5 = ar^4 = 768 \end{cases}$$

であり、これより $\frac{ar^4}{ar} = \frac{768}{12}$ $r^3 = 64$ r は実数であるから、 $r = 4$

このとき、 $a = 3$ である。

よって、等比数列 $\{a_n\}$ の一般項は、 $a_n = 3 \cdot 4^{n-1}$ である。

さらにこのとき、等比数列 $\{a_n\}$ の初項から第 n 項までの和を S_n とおくと、

$$S_n = \frac{3(4^n - 1)}{4 - 1} = 4^n - 1 \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

である。

【3】

(1) 求める等差数列 $\{a_n\}$ の初項を a 、公差を d とすると、 $a_n = a + (n-1)d$ であるから、

$$a_{10} + a_{11} + a_{12} + a_{13} + a_{14} = 365$$

$$5a + 55d = 365 \quad a + 11d = 73 \quad \dots\dots\textcircled{1}$$

$$a_{15} + a_{17} + a_{19} = -6 \quad 3a + 48d = -6 \quad a + 16d = -2 \quad \dots\dots\textcircled{2}$$

①、②を連立して解くと、

$$a = 238, \quad d = -15$$

である。よって、数列 $\{a_n\}$ の初項は238、公差は-15である。

(2) (1)より, $a_n = 238 + (n-1) \cdot (-15) = -15n + 253$ であり,

$$\begin{cases} 1 \leq n \leq 16 \text{のとき, } a_n > 0 \\ 17 \leq n \text{のとき, } a_n < 0 \end{cases}$$

により, $S_1 < S_2 < \dots < S_{16} > S_{17} > S_{18} > \dots$ であることがわかる.

したがって, S_n は $n=16$ のとき, 最大値をとる.

ここで, $S_{16} = \frac{16(a_1 + a_{16})}{2} = \frac{16(238 + 13)}{2} = 2008$ であるから, 求める S_n の最大値は2008

【4】

(1) $x, 2x-5, y$ がこの順で等差数列になっているので, $x+y=2(2x-5)$ が成り立つ.

これより, $y=3x-10$ ……①

同様に, $2x-5, y, z$ もこの順で等差数列になっているので,

$$\begin{aligned} (2x-5) + z = 2y & \quad z = -2x + 2y + 5 \quad \text{が成り立つ. これに①を代入すると,} \\ z = -2x + 2(3x-10) + 5 = 4x - 15 & \quad \dots\dots② \end{aligned}$$

(2) x, y, z がこの順で等比数列になっているので, $xz=y^2$ ……③が成り立つ.

これに①, ②を代入すると, $x(4x-15) = (3x-10)^2$ $(x-4)(x-5) = 0$ $x=4, 5$

【5】

奇数の数列 $1, 3, 5, \dots$ の一般項を a_n とすると, $a_n = 1 + (n-1) \cdot 2 = 2n-1$ である.

(1) $(1+2+3+\dots+9)+1 = \frac{9 \cdot 10}{2} + 1 = 46$ であるから, 第10群の最初の項は数列 $\{a_n\}$ の第46

項である. よって, 第10群の最初の数は, $a_{46} = 2 \cdot 46 - 1 = 91$

(2) $(1+2+3+\dots+7)+1 = \frac{7 \cdot 8}{2} + 1 = 29$ $1+2+3+\dots+8 = \frac{8 \cdot 9}{2} = 36$

であるから, 第8群の数の和は, 初項 a_{29} , 末項 a_{36} , 項数8の等差数列の和である.

よって, $\frac{8(a_{29} + a_{36})}{2} = \frac{8(57 + 71)}{2} = 512$

(3) $2n-1=999$ とすると, $n=500$ であるから, 999は数列 $\{a_n\}$ の第500項であることがわかる.

ここで, $1+2+3+\dots+31 = \frac{31 \cdot 32}{2} = 496$ であるから, a_{496} は第31群の最後である.

よって, 999は第32群の第4番目の数である.

【10】

数列, $1, \frac{2}{3}, \frac{3}{3^2}, \frac{4}{3^3}, \dots$ の第 n 項までの和を S_n とおくと,

$S_n = 1 + \frac{2}{3} + \frac{3}{3^2} + \frac{4}{3^3} + \Lambda \Lambda + \frac{n}{3^{n-1}}$ であり, $S_n - \frac{1}{3}S_n$ を次のように計算すると,

$$\begin{aligned} S_n &= 1 + \frac{2}{3} + \frac{3}{3^2} + \frac{4}{3^3} + \dots + \frac{n}{3^{n-1}} \\ - \frac{1}{3}S_n &= \frac{1}{3} + \frac{2}{3^2} + \frac{3}{3^3} + \dots + \frac{n-1}{3^{n-1}} + \frac{n}{3^n} \\ \hline \frac{2}{3}S_n &= 1 + \frac{1}{3} + \frac{1}{3^2} + \frac{1}{3^3} + \dots + \frac{1}{3^{n-1}} - \frac{n}{3^n} \\ &= \frac{1 - \left(\frac{1}{3}\right)^n}{1 - \frac{1}{3}} - \frac{n}{3^n} = \frac{3}{2} \left\{ 1 - \left(\frac{1}{3}\right)^n \right\} - \frac{n}{3^n} \end{aligned}$$

となる. よって, $S_n = \frac{9}{4} - \frac{1}{2} \left(n + \frac{3}{2} \right) \cdot \left(\frac{1}{3} \right)^{n-1}$ ($n=1, 2, 3, \dots$)

【11】

$$\begin{aligned} \sum_{k=1}^n \frac{2}{\sqrt{k} + \sqrt{k+1}} &= \sum_{k=1}^n \frac{2(\sqrt{k} - \sqrt{k+1})}{(\sqrt{k} + \sqrt{k+1})(\sqrt{k} - \sqrt{k+1})} = -2 \sum_{k=1}^n (\sqrt{k} - \sqrt{k+1}) \\ &= -2\{(\sqrt{1} - \sqrt{2}) + (\sqrt{2} - \sqrt{3}) + \Lambda \Lambda + (\sqrt{n} - \sqrt{n+1})\} = -2(1 - \sqrt{n+1}) = 2\sqrt{n+1} - 2 \end{aligned}$$

【12】

$$\begin{aligned} \sum_{k=1}^n (k^2 + 2k + 3) &= \sum_{k=1}^n k^2 + 2 \sum_{k=1}^n k + 3 \sum_{k=1}^n 1 = \frac{n(n+1)(2n+1)}{6} + 2 \cdot \frac{n(n+1)}{2} + 3n \\ &= \frac{1}{6} n\{(n+1)(2n+1) + 6(n+1) + 18\} = \frac{1}{6} n(2n^2 + 9n + 25) \end{aligned}$$

【13】

$$\begin{aligned} &1^2 - 2^2 + 3^2 - 4^2 + \dots + (2n-1)^2 - (2n)^2 \\ &= \sum_{k=1}^n \{(2k-1)^2 - (2k)^2\} = \sum_{k=1}^n (-4k+1) = -4 \sum_{k=1}^n k + \sum_{k=1}^n 1 \\ &= -4 \cdot \frac{n(n+1)}{2} + n = -n(2n+1) \end{aligned}$$

【14】

$$\begin{aligned}
& 1 \cdot N + 2 \cdot (N-1) + 3 \cdot (N-2) + \cdots + N \cdot 1 \\
&= \sum_{k=1}^N k \cdot (N+1-k) = (N+1) \sum_{k=1}^N k - \sum_{k=1}^N k^2 \\
&= (N+1) \cdot \frac{N(N+1)}{2} - \frac{N(N+1)(2N+1)}{6} \\
&= \frac{1}{6} N(N+1) \{3(N+1) - (2N+1)\} \\
&= \frac{1}{6} N(N+1)(N+2)
\end{aligned}$$

【15】

$$a_1 = b_1 = 6, \quad a_2 = b_2 = 3, \quad a_3 = b_3 = 2$$

(1) $c_n = a_{n+1} - a_n$ より, $c_1 = a_2 - a_1 = 3 - 6 = -3$, $c_2 = a_3 - a_2 = 2 - 3 = -1$ であり, 数列 $\{c_n\}$ は等差数列なので, $c_n = -3 + (n-1) \cdot 2 = 2n - 5$

よって, $n \geq 2$ のとき,

$$a_n = a_1 + \sum_{k=1}^{n-1} c_k = 6 + \sum_{k=1}^{n-1} (2k - 5) = 6 + \frac{(n-1)\{(-3) + (2n-7)\}}{2} = n^2 - 6n + 11$$

これは, $n=1$ のときも成り立つ.

したがって, $a_n = n^2 - 6n + 11$ ($n=1, 2, 3, \dots$)

(2) $d_n = b_{n+1} - b_n$ より, $d_1 = b_2 - b_1 = 3 - 6 = -3$, $d_2 = b_3 - b_2 = 2 - 3 = -1$

であり, 数列 $\{d_n\}$ は等比数列なので, $d_n = (-3) \cdot \left(\frac{1}{3}\right)^{n-1}$

よって, $n \geq 2$ のとき,

$$b_n = b_1 + \sum_{k=1}^{n-1} d_k = 6 + \sum_{k=1}^{n-1} (-3) \cdot \left(\frac{1}{3}\right)^{k-1} = 6 + \frac{(-3) \left\{1 - \left(\frac{1}{3}\right)^{n-1}\right\}}{1 - \frac{1}{3}} = \frac{3}{2} + \frac{1}{2} \left(\frac{1}{3}\right)^{n-3}$$

これは, $n=1$ のときも成り立つ. したがって, $b_n = \frac{3}{2} + \frac{1}{2} \left(\frac{1}{3}\right)^{n-3}$ ($n=1, 2, 3, \dots$)

【16】

(1) $n \geq 2$ のとき,

$$\begin{aligned} a_n &= S_n - S_{n-1} \\ &= (n^3 + 6n^2 + 11n) - \{(n-1)^3 + 6(n-1)^2 + 11(n-1)\} \\ &= (n^3 + 6n^2 + 11n) - (n^3 + 3n^2 + 2n - 6) \\ &= 3n^2 + 9n + 6 \end{aligned}$$

ここで, $a_1 = S_1 = 18$ であるから, $n=1$ のときも成り立つ.

よって, $a_n = 3n^2 + 9n + 6$ ($n=1, 2, 3, \dots$)

(2) (1) より,

$$a_k = 3k^2 + 9k + 6 = 3(k+1)(k+2)$$

であるから,

$$\begin{aligned} \sum_{k=1}^n \frac{1}{a_k} &= \sum_{k=1}^n \frac{1}{3(k+1)(k+2)} = \frac{1}{3} \sum_{k=1}^n \left(\frac{1}{k+1} - \frac{1}{k+2} \right) \\ &= \frac{1}{3} \left(\frac{1}{2} - \frac{1}{n+2} \right) = \frac{n}{6(n+2)} \end{aligned}$$

新城門プロジェクト(第8回)

テーマ: 図形と方程式

§1. 基本問題(自習用)

【1】

$a > 0$ とする. 2直線 $ax + (1-a)y = 1$ と $(2+a)x - y = 2$ について, これらの2直線が平行であるときの a の値, 直交しているときの a の値をそれぞれ求めよ.

【2】

点 $(2, 1)$ を通り, x 軸と y 軸の両方に接する円の方程式を求めよ.

【3】

円 $C: x^2 + y^2 + 2x + 2y = 0$ の中心を P とする. P の座標は \square であり, P と直線 $l: x - 2y - 2 = 0$ との距離は \square である. l が C によって切り取られる弦の長さは \square である.

【4】

xy 平面上で点 $A(2, 1)$ と円 $C: (x+1)^2 + y^2 = 4$ が与えられているとする. また, 点 A を通り傾きが m の直線を l とする.

- (1) 直線 l が円 C に接するとき, m の値を求めよ.
- (2) 円 C と直線 l が異なる2点 B, C で交わり, 線分 BC の長さが2であるとき, m の値を求めよ.

【5】

xy 平面上の2定点 $A(-4, 0)$, $B(0, 3)$ と円 $x^2 + y^2 - 4x - 2y + 4 = 0$ 上の動点 P について, 次の問いに答えよ.

- (1) A, B を通る直線の方程式を求めよ.
- (2) 円の中心の座標と半径を求めよ.
- (3) $\triangle ABP$ の面積の最大値を求めよ.

【6】

x, y の方程式 $kx^2 - (k+1)x - 2(k-1)y + 2k - 5 = 0$ ……①について,

- (1) ①が直線を表す k とそのときの方程式を求めよ.
- (2) ①が放物線を表し, 直線 $y = 2$ に接するような k の値を求めよ.
- (3) ①のグラフは実数 k のどんな値に対しても定点を通ることを示し, その定点の座標を求めよ.

【7】

- (1) 円 $x^2+y^2=4$ と直線 $x+\sqrt{3}y-2=0$ の交点の座標を求めよ.
- (2) 2つの不等式 $x^2+y^2\leq 4$, $x+\sqrt{3}y-2\geq 0$ を同時に満足する領域の面積を求めよ.

【8】

平面上の2点A(2, 1), B(-4, -2)に対して $AP:BP=1:2$ をみたす点Pの軌跡を求めよ.

【9】

- (1) xy 平面において, 連立不等式 $x^2+y^2-4x\leq 0$, $x^2+y^2+2y\geq 0$ の表す領域を図示せよ.
- (2) 直線 $x+y=k$ が(1)の領域と共有点をもつための, k に関する条件を求めよ.

【10】

2次関数 $y=x^2+(2k-10)x-4k+16$ ($k\geq 0$)のグラフについて, 次の問に答えよ.

- (1) 頂点の座標を k を用いて表せ.
- (2) k が変化するとき, 頂点の軌跡を求めよ.

【11】

円 $C:(x-1)^2+(y-1)^2=2^2$ と2点A(5, 1), B(3, 4)がある. 点Pが円C上を動くとき, $\triangle ABP$ の重心Gの軌跡を求めよ.

§ 2. 練習用問題

【1】

円Oと円O'の方程式をそれぞれ $x^2+y^2-2y=0$, $x^2+y^2-4x-4y+4=0$ とする. 傾きが0でない直線が円OとO'にそれぞれ点P, P'で接するときlの方程式とP, P'の座標を求めよ.

【2】

xy平面上の原点をOとし, 半円 $x^2+y^2=9$, $y \geq 0$ を C_1 とおく. 半円 C_1 の周上に2点P, Qをとり, 弦PQを軸として, 弧PQを折り返し, 点 $R(\sqrt{3}, 0)$ でx軸に接するようにする. 次の問いに答えよ.

- (1) 折り返した円弧を円周の一部にもつ円を C_2 とする. 円 C_2 の方程式を求めよ.
- (2) 3点P, O, Qを通る円を C_3 とする. 円 C_3 の中心の座標および半径を求めよ.
- (3) 円 C_2 の周上に点Aを, 円 C_3 の周上に点Bをとるとき, 線分ABの長さの最大値を求めよ.

【3】

xy平面上の放物線 $A: y=x^2$, $B: y=-(x-a)^2+b$ は異なる2点 $P(x_1, y_1)$, $Q(x_2, y_2)$ ($x_1 > x_2$)で交わるとする.

- (1) $x_1 - x_2 = 2$ が成り立つとき, b を a で表せ.
- (2) $x_1 - x_2 = 2$ を満たしながら a , b が変化するとき, 直線PQの通過する領域を求め, 図示せよ.

【4】

2つの直線

$$l: (k+1)x + (1-k)y + k - 1 = 0, \quad m: kx + y + 1 = 0$$

がある. k がすべての実数値をとるとき, l と m の交点の軌跡を求めよ.

§ 3. 添削用問題

【1】

x 軸の正の部分を通る点 $P(t, 0)$ ($t > 0$)と2点 $A(0, 1)$, $B(0, 3)$ がある.

- (1) 3点 A , B , P を通る円の中心の座標を求めよ.
- (2) 2点 A , B を通り, x 軸の正の部分に接する円の方程式を求めよ.
- (3) $\angle APB$ を最大にする点 P の座標を求めよ.

【2】

座標平面上において, 放物線 $C: y = x^2$ と直線 $l: y = mx - 2m + 3$ が, 相異なる2点 $P(\alpha, \alpha^2)$, $Q(\beta, \beta^2)$ で交わっている. ただし, $\alpha < \beta$ とする.

- (1) 実数 m がとり得る値の範囲を求めよ. また, $\alpha + \beta$ および $\alpha\beta$ を m の式で表せ.
- (2) 実数 m が(1)の範囲のすべての値をとって変化するとき, 線分 PQ の midpoint S が描く図形を求め, 図示せよ.

<基本問題の解答と解説>

【1】

与えられた2直線が，平行となる条件は， $a \cdot (-1) - (1-a)(2+a) = 0$

$a > 0$ より，求める a の値は $a = \sqrt{2}$

また，与えられた2直線が，直交する条件は， $a(2+a) + (1-a) \cdot (-1) = 0$

$a > 0$ より，求める a の値は $a = \frac{-3 + \sqrt{13}}{2}$

【2】

求める円は，第1象限の点を通り， x 軸と y 軸の両方に接するから，円の中心は第1象限にある．よって，円の半径を $r (> 0)$ とおくと，前述のことより中心は (r, r) とおけるから，求める円の方程式は， $(x-r)^2 + (y-r)^2 = r^2$ と表せる．

これが点 $(2, 1)$ を通るから， $(2-r)^2 + (1-r)^2 = r^2$ $(r-1)(r-5) = 0$ $r = 1, 5$

よって，求める円の方程式は， $(x-1)^2 + (y-1)^2 = 1$ および， $(x-5)^2 + (y-5)^2 = 25$

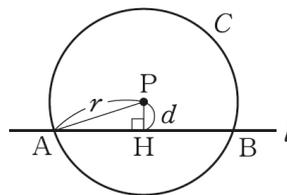
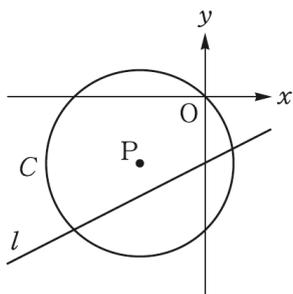
【3】

円 C の方程式は， $(x+1)^2 + (y+1)^2 = 2$ と変形できるから，円 C の中心 P ，半径 r について，

$P(-1, -1)$ ， $r = \sqrt{2}$ である．

よって， P から直線 l までの距離を d とすると，点と直線の距離の公式より，

$$d = \frac{|-1 - 2 \cdot (-1) - 2|}{\sqrt{1^2 + (-2)^2}} = \frac{1}{\sqrt{5}}$$



$d < r$ より C と l は2交点をもつ．これらを A, B とする．また，線分 AB の中点を H とする． H は P から l に下ろした垂線の足でもある．

l が C によって切り取られる弦は線分 AB であり，その長さを L とすると，三平方の定理より，

$$L = 2AH = 2\sqrt{r^2 - d^2} = \frac{6}{\sqrt{5}}$$

【4】

円Cの中心をM, 半径を r とすると, $M(-1, 0) \quad r=2$

また, 直線 l の方程式は, $y-1=m(x-2)$

すなわち, $mx-y-(2m-1)=0$

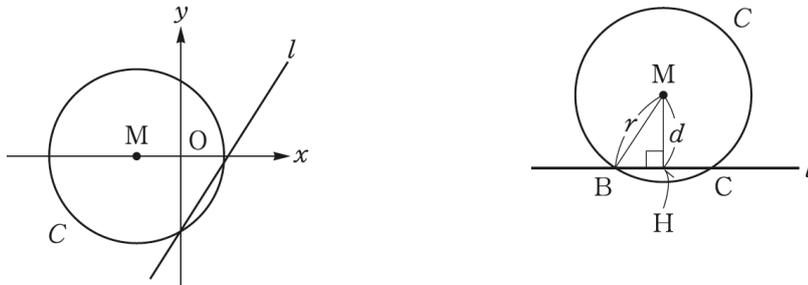
であるから, Mから l までの距離を d とすると, $d = \frac{|-m-0-(2m-1)|}{\sqrt{m^2+(-1)^2}} = \frac{|3m-1|}{\sqrt{m^2+1}}$

(1) l がCに接する条件は, $d=r$ すなわち $\frac{|3m-1|}{\sqrt{m^2+1}}=2 \quad |3m-1|=2\sqrt{m^2+1}$

$$(3m-1)^2=4(m^2+1) \quad 5m^2-6m-3=0$$

よって, 求める m の値は, $m = \frac{3 \pm 2\sqrt{6}}{5}$

(2) 線分BCの中点をHとすると, HはMから l に下ろした垂線の足でもある。



$BH = \frac{1}{2}BC = 1$ であることと, 三平方の定理より, $d = \sqrt{r^2 - BH^2} = \sqrt{3}$

よって, $\frac{|3m-1|}{\sqrt{m^2+1}} = \sqrt{3} \quad |3m-1| = \sqrt{3}\sqrt{m^2+1} \quad (3m-1)^2 = 3(m^2+1)$

$$6m^2 - 6m - 2 = 0 \quad \text{よって, 求める } m \text{ の値は, } m = \frac{3 \pm \sqrt{21}}{6}$$

【5】

(1) 直線ABの傾きは $\frac{3-0}{0-(-4)} = \frac{3}{4}$ であるから, 直線ABの方程式は, $y = \frac{3}{4}x + 3$

すなわち, $3x - 4y + 12 = 0$

(2) 与えられた円の方程式は, $(x-2)^2 + (y-1)^2 = 1$ と変形できるから, この円の中心をM, 半径を r とおくと, $M(2, 1) \quad r=1$

(3) 線分ABを底辺と見たときの、三角形ABPの高さを h とする。また、Mから直線ABに下

ろした垂線の足をHとする。 $AB = \sqrt{(0+4)^2 + (3-0)^2} = 5$ (一定)

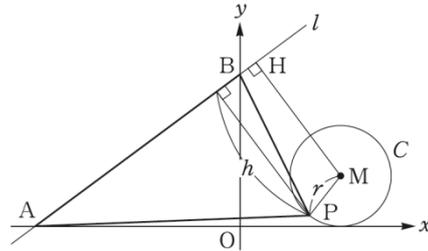
であるから、三角形ABPの面積が最大となるのは、高さ h が最大するときであり、これは、H, M, Pがこの順に一直線上に並ぶときである。

$$MH = \frac{|3 \cdot 2 - 4 \cdot 1 + 12|}{\sqrt{3^2 + (-4)^2}} = \frac{14}{5}$$

であるから、 h の最大値は、 $MH + r = \frac{14}{5} + 1 = \frac{19}{5}$

であり、三角形ABPの面積の最大値は、

$$\frac{1}{2} \cdot 5 \cdot \frac{19}{5} = \frac{19}{2} \text{ である。}$$



【6】

(1) ①が直線を表すのは、2次の項 kx^2 の係数 k が0のときであり、このとき①は、

$$-x + 2y - 5 = 0 \text{ すなわち } x - 2y + 5 = 0$$

よって、求める k の値と直線の方程式は、 $k=0, x-2y+5=0$

(2) ①が放物線を表し、直線 $y=2$ に接するのは、2次の項 kx^2 の係数 k が0でなく、さらに、

①に $y=2$ を代入して得られる x の2次方程式が重解をもつときである。

①に $y=2$ を代入すると、 $kx^2 - (k+1)x - 2k - 1 = 0$

この2次方程式の判別式を D とおくと、

$$D = (k+1)^2 - 4k(-2k-1) = 9k^2 + 6k + 1 = (3k+1)^2$$

よって、求める k の値は、 $k \neq 0$ かつ $D=0$ より、 $k = -\frac{1}{3}$

(3) ①のグラフが点 (p, q) を通る条件は、

$$kp^2 - (k+1)p - 2(k-1)q + 2k - 5 = 0 \quad \dots\dots ②$$

が成り立つことである。

②を k について整理すると、 $(p^2 - p - 2q + 2)k + (-p + 2q - 5) = 0 \quad \dots\dots ②'$

①のグラフが k の値によらず点 (p, q) を通る条件は、②が k の値によらず成り立つこと、すなわち、②'が k の恒等式となることである。

②'が k の恒等式となる条件は、

$$\begin{cases} p^2 - p - 2q + 2 = 0 & \wedge \wedge ③ \\ -p + 2q - 5 = 0 & \wedge \wedge ④ \end{cases}$$

③+④より、 $p^2 - 2p - 3 = 0 \quad (p+1)(p-3) = 0$

よって、 $(p, q) = (-1, 2), (3, 4)$ したがって、①のグラフは k の値によらず2定点 $(-1, 2), (3, 4)$ を通る。

【7】

(1) 円と直線の方程式を連立する.

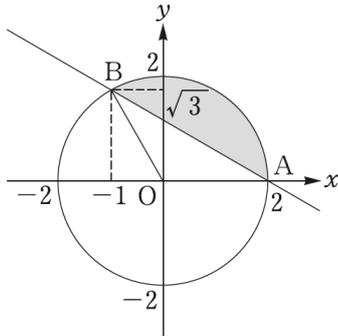
$$\begin{cases} x^2 + y^2 = 4 & \Lambda \Lambda \text{ ①} \\ x + \sqrt{3}y - 2 = 0 & \Lambda \Lambda \text{ ②} \end{cases}$$

②より, $x = 2 - \sqrt{3}y$ ……②'

②'を①に代入すると, $(2 - \sqrt{3}y)^2 + y^2 = 4$ $4y^2 - 4\sqrt{3}y = 0$ $4y(y - \sqrt{3}) = 0$ より $y = 0, \sqrt{3}$

これと②'より, 交点の座標は, $(2, 0), (-1, \sqrt{3})$

(2) 与えられた不等式の表す領域は, 次の図の灰色の部分(境界線を含む)のようになる.



(1)で求めた交点 $(2, 0), (-1, \sqrt{3})$ を順にA, Bとおくと, Aはx軸の正の部分にあり, Bの座

標は $(2\cos\frac{2}{3}\pi, 2\sin\frac{2}{3}\pi)$ と表せることから, Oを原点として $\angle AOB = \frac{2}{3}\pi$ である.

したがって, 求める面積をSとおくと,

$$S = (\text{扇形OAB}) - \triangle OAB = \frac{1}{2} \cdot 2^2 \cdot \frac{2}{3}\pi - \frac{1}{2} \cdot 2^2 \cdot \sin\frac{2}{3}\pi = \frac{4}{3}\pi - \sqrt{3}$$

【8】

Pの座標を (X, Y) とおくと, $AP : BP = 1 : 2$ より, $2AP = BP$ すなわち $2^2AP^2 = BP^2$

$$4\{(X-2)^2 + (Y-1)^2\} = \{X - (-4)\}^2 + \{Y - (-2)\}^2$$

$$3(X^2 - 8X + Y^2 - 4Y) = 0 \quad (X-4)^2 + (Y-2)^2 = 20$$

よって, 求める軌跡は, 円 $(x-4)^2 + (y-2)^2 = 20$ である.

[9]

(1) 境界線

$$\begin{cases} x^2 + y^2 - 4x = 0 & \wedge \wedge \textcircled{1} \\ x^2 + y^2 + 2y = 0 & \wedge \wedge \textcircled{2} \end{cases}$$

について、 $\textcircled{1}$ は、 $(x-2)^2 + y^2 = 4$

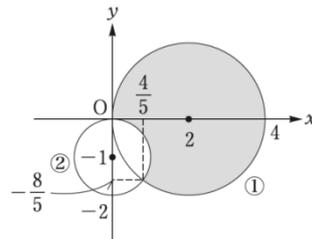
と表せるから、 $\textcircled{1}$ の表す図形は中心が $(2, 0)$ 、半径が2の円である。

また、 $\textcircled{2}$ は、 $x^2 + (y+1)^2 = 1$ と表せるから、 $\textcircled{2}$ の表す図形は中心が $(0, -1)$ 、半径が1の円である。さらに、 $\textcircled{1}-\textcircled{2}$ より、 $-4x-2y=0$ すなわち $y = -2x$ …… $\textcircled{3}$

$\textcircled{3}$ を $\textcircled{2}$ に代入すると、 $5x^2 - 4x = 0$ より $x = 0, \frac{4}{5}$

これと $\textcircled{3}$ より、 $\textcircled{1}, \textcircled{2}$ の交点は、 $(0, 0), \left(\frac{4}{5}, -\frac{8}{5}\right)$ である。

与えられた不等式の表す領域は、円 $\textcircled{1}$ の内部または周と円 $\textcircled{2}$ の外部または周の共通部分であるから、下図の灰色の部分(境界を含む)。



(2) 円 $\textcircled{1}$ の中心を点M, 円 $\textcircled{1}, \textcircled{2}$ の交点のうち、原点と異なる方を点Aと呼ぶことにする。

直線 $x+y=k$ …… $\textcircled{4}$ は、傾きが -1 でy切片が k の直線である。

直線 $\textcircled{4}$ が円 $\textcircled{1}$ に接するとき、Mから $\textcircled{4}$ までの距離が、 $\textcircled{1}$ の半径に等しいから、

$$\frac{|2+0-k|}{\sqrt{1^2+1^2}} = 2 \quad |k-2| = 2\sqrt{2} \quad k = 2 \pm 2\sqrt{2}$$

よって図より、 k のとり得る最大値は $k = 2 + 2\sqrt{2}$

また、MAの傾きは $\frac{-\frac{8}{5}-0}{\frac{4}{5}-2} = \frac{4}{3}$ であるから、Aにおける $\textcircled{1}$ の接線の傾きは $-\frac{3}{4}$ であり、 $\textcircled{4}$

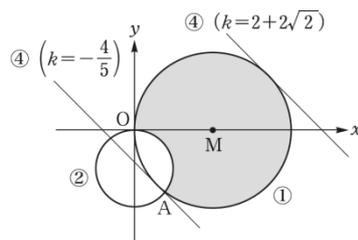
の傾きより大きいから、 k が最小値をとるのは $\textcircled{4}$ がAを通るときとなる。

よって、 k のとり得る最小値は

$$k = x + y = \frac{4}{5} + \left(-\frac{8}{5}\right) = -\frac{4}{5}$$

以上より、 k の満たすべき条件は、

$$-\frac{4}{5} \leq k \leq 2 + 2\sqrt{2}$$



【10】

(1) 与えられた2次関数は,

$$y = \{x + (k-5)\}^2 - (k-5)^2 - 4k + 16 = \{x - (5-k)\}^2 + (-k^2 + 6k - 9)$$

と表せるから, 求める頂点の座標は, $(5-k, -k^2 + 6k - 9)$

(2) 頂点を (X, Y) とおくと, X, Y, k の満たすべき条件は,

$$\begin{cases} X = 5 - k & \Delta \Delta \textcircled{1} \\ Y = -k^2 + 6k - 9 & \Delta \Delta \textcircled{2} \\ k \geq 0 & \Delta \Delta \textcircled{3} \end{cases}$$

求める軌跡, すなわち, X, Y の関係式は, ①, ②, ③を満たす k が存在するような X, Y の条件であり, これは, ①から得られる $k = 5 - X$ を②, ③に代入して得られる

$$Y = -(5-X)^2 + 6(5-X) - 9, \quad 5-X \geq 0$$

である. この式を整理して, $Y = -(X-2)^2, X \leq 5$

よって, 求める軌跡は, 放物線 $y = -(x-2)^2$ の $x \leq 5$ の部分

【11】

円 C と直線 AB は右図のように共有点をもたないから, 点 P が円 C 上のどこにあっても A, B, P を3頂点とする三角形が作れる.

$P(s, t), G(X, Y)$ とおくと, P は C 上にあるから,

$$(s-1)^2 + (t-1)^2 = 2^2 \quad \dots\dots\textcircled{1}$$

また, 三角形 ABP の重心が G であるから,

$$X = \frac{5+3+s}{3} \text{ かつ } Y = \frac{1+4+t}{3} \quad \dots\dots\textcircled{2}$$

②より, $s = 3X - 8$ かつ $t = 3Y - 5$

これを①に代入すると, $(3X-8-1)^2 + (3Y-5-1)^2 = 2^2 \quad (X-3)^2 + (Y-2)^2 = \frac{4}{9}$

よって, G の軌跡は, 円 $(x-3)^2 + (y-2)^2 = \frac{4}{9}$

新城門プロジェクト(第9回)

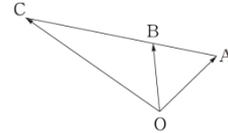
テーマ:平面ベクトル

§1. 基本問題(自習用)

【1】

図のように, 同一直線上にある3点A, B, Cは

AB:BC=1:2を満たしている. \vec{OC} を \vec{OA} , \vec{OB} を用いて表せ.



【2】

$\vec{a} \neq \vec{0}$, $\vec{b} \neq \vec{0}$, \vec{a} 平行でない \vec{b} である2つのベクトル \vec{a} , \vec{b} があって, これらが,

$$s(\vec{a} + 3\vec{b}) + t(-2\vec{a} + \vec{b}) = -5\vec{a} - \vec{b}$$

を満たすとき, s , t の値を求めよ.

【3】

平行四辺形ABCDの辺BCを1:2に内分する点をE, 直線AEと対角線BDとの交点をF, 直線AEと直線CDとの交点をGとする. $\vec{AB} = \vec{a}$, $\vec{AD} = \vec{b}$ とするとき, 3つのベクトル \vec{AE} , \vec{AF} , \vec{AG} を \vec{a} , \vec{b} を用いて表せ.

【4】

三角形OABにおいて, $OA=3$, $OB=4$, $AB=2$ とする. 三角形OABの重心をG, 内心をI とするとき, ベクトル \vec{OG} , \vec{OI} をベクトル \vec{OA} , \vec{OB} を用いて表せ.

【5】

AD//BC, $BC=2AD$ である四角形ABCDがある. 点P, Qが,

$$\vec{PA} + 2\vec{PB} + 3\vec{PC} = \vec{0}, \quad \vec{QA} + \vec{QC} + \vec{QD} = \vec{0}$$

を満たすとき, 次の問いに答えよ.

- (1) ABとPQが平行であることを示せ.
- (2) 3点P, Q, Dが一直線上にあることを示せ.

【6】

三角形OABにおいて、 $\overrightarrow{OA}=\vec{a}$ 、 $\overrightarrow{OB}=\vec{b}$ とし、点Cと点Dを $\overrightarrow{OC}=2\vec{a}$ 、 $\overrightarrow{OD}=3\vec{b}$ によりそれぞれ定める。また、線分ADと線分BCの交点をEとする。

(1) $AE:AD=t:1$ ($0<t<1$)とするとき、 \overrightarrow{OE} を t 、 \vec{a} 、 \vec{b} を用いて表せ。

(2) $BE:BC=s:1$ ($0<s<1$)とするとき、 \overrightarrow{OE} を s 、 \vec{a} 、 \vec{b} を用いて表せ。

(3) (1)と(2)を利用することにより、 \overrightarrow{OE} を \vec{a} と \vec{b} を用いて表せ。

【7】

座標平面上に3点O(0, 0), A(3, 2), B(1, 5)がある。

(1) 三角形OABの面積を求めよ。

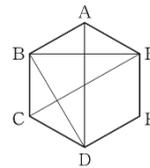
(2) s と t が条件 $s\geq 0$ 、 $t\geq 0$ 、 $1\leq s+t\leq 2$ を満たすとき、 $\overrightarrow{OP}=s\overrightarrow{OA}+t\overrightarrow{OB}$ で定まる点Pの存在する範囲の面積を求めよ。

【8】

1辺の長さが a の正六角形ABCDEFにおいて、内積

$$\overrightarrow{AD}\cdot\overrightarrow{BF}, \overrightarrow{AD}\cdot\overrightarrow{BD}, \overrightarrow{AD}\cdot\overrightarrow{CF}$$

をそれぞれ求めよ。

**【9】**

3つのベクトル $\vec{a}=(4,-3)$ 、 $\vec{b}=(-5,2)$ 、および $\vec{c}=(1,3)$ について、 $t\vec{a}+\vec{b}$ と \vec{c} が垂直になるような t の値を求めよ。

【10】

$\vec{a}=(-4,3)$ 、 $\vec{b}=(3,1)$ に対して、 $|\vec{a}+t\vec{b}|$ の最小値を求めよ。また、このとき、 $\vec{a}+t\vec{b}$ と \vec{b} とのなす角を求めよ。

【11】

三角形OABにおいて、 $\overrightarrow{OA}=\vec{a}$ 、 $\overrightarrow{OB}=\vec{b}$ とする。 $|\vec{a}|=3$ 、 $|\vec{b}|=2$ 、 $|\vec{a}-2\vec{b}|=\sqrt{7}$ のとき、

- (1) \vec{a} と \vec{b} の内積 $\vec{a}\cdot\vec{b}$ の値を求めよ。
- (2) 三角形OABの面積を求めよ。

【12】

三角形OABにおいて、 $OA=2$ 、 $OB=3$ 、 $AB=4$ である。点Oから辺ABに下ろした垂線の足をHとする。 $\overrightarrow{OA}=\vec{a}$ 、 $\overrightarrow{OB}=\vec{b}$ とおくとき、 \overrightarrow{OH} を \vec{a} 、 \vec{b} を用いて表せ。

【13】

三角形ABCにおいて、 $AB=2$ 、 $AC=3$ 、 $\angle A=60^\circ$ 、 $\overrightarrow{AB}=\vec{b}$ 、 $\overrightarrow{AC}=\vec{c}$ とする。このとき、

三角形ABCの外心をOとして、 $\overrightarrow{AO}=x\vec{b}+y\vec{c}$ と表したとき、 x 、 y の値を求めよ。

【14】

平面上に $|\vec{a}|=|\vec{b}|=2$ 、 $|\vec{a}-\vec{b}|=2\sqrt{3}$ を満たすベクトル \vec{a} 、 \vec{b} がある。

$(\vec{p}-\vec{a})\cdot(\vec{p}-\vec{b})=0$ を満たすベクトル \vec{p} について、 $|\vec{p}|$ の最大値と最小値を求めよ。

§ 2. 練習用問題

【1】

三角形OABにおいて、辺AB上に点Qをとり、直線OQ上に点Pをとる。ただし、点Pは点Qに関して点Oと反対側にあるとする。3つの三角形OAP, OBP, ABPの面積をそれぞれ a , b , c とする。

- (1) \overrightarrow{OQ} を \overrightarrow{OA} , \overrightarrow{OB} および a , b を用いて表せ。
- (2) \overrightarrow{OP} を \overrightarrow{OA} , \overrightarrow{OB} および a , b , c を用いて表せ。
- (3) 3辺OA, OB, ABの長さをそれぞれ3, 5, 6とする。点Pを中心とし、3直線OA, OB, ABに接する円が存在するとき、 \overrightarrow{OP} を \overrightarrow{OA} , \overrightarrow{OB} を用いて表せ。

【2】

原点をOとする座標平面上に、点A(2, 0)を中心とする半径1の円 C_1 と、点B(-4, 0)を中心とする半径2の円 C_2 がある。点Pは C_1 上を、点Qは C_2 上を、それぞれ独立に、自由に動きまわるとする。

- (1) $\overrightarrow{OS} = \frac{1}{2}(\overrightarrow{OA} + \overrightarrow{OQ})$ とすると、点Sが動くことのできる範囲を求め、その概形をかけ。
- (2) $\overrightarrow{OR} = \frac{1}{2}(\overrightarrow{OP} + \overrightarrow{OQ})$ とすると、点Rが動くことのできる範囲を求め、その概形をかけ。

【3】

AC=4ABを満たす三角形ABCにおいて、辺ABを2:1に内分する点をD、辺ACを1:2に内分する点をE、線分BEとCDの交点をFとする。

- (1) \overrightarrow{AF} を \overrightarrow{AB} と \overrightarrow{AC} を用いて表せ。
- (2) $\angle BAF = 30^\circ$ のとき、 $\angle BAC$ の大きさを求めよ。

【4】

三角形ABCの外心Oから直線BC, CA, ABに下ろした垂線の足をそれぞれP, Q, Rとするとき、 $\overrightarrow{OP} + 2\overrightarrow{OQ} + 3\overrightarrow{OR} = \vec{0}$ が成立しているとする。

- (1) \overrightarrow{OA} , \overrightarrow{OB} , \overrightarrow{OC} の関係式を求めよ。 (2) $\angle A$ の大きさを求めよ。

§ 3. 添削用問題

【1】

平行四辺形ABCDにおいて，三角形ABCの内部に点P，三角形ADCの内部に点Qがある．

$\vec{AP} + 3\vec{BP} + 2\vec{CP} = \vec{0}$ ， $3\vec{AQ} + 4\vec{DQ} + 2\vec{CQ} = \vec{0}$ が成り立つとき，

- (1) 3つの三角形PAB，PBC，PCAの面積比を求めよ．
- (2) 平行四辺形ABCDと四角形APCQの面積比を求めよ．

【2】

1辺の長さが2の正三角形ABCの外接円を円Oとする．点Pが円Oの周上を動く．

- (1) 円Oの半径を求めよ．
- (2) 内積の和 $\vec{PA} \cdot \vec{PB} + \vec{PB} \cdot \vec{PC} + \vec{PC} \cdot \vec{PA}$ を求めよ．
- (3) 内積 $\vec{PA} \cdot \vec{PB}$ の最大値，最小値を求めよ．

<基本問題の解答と解説>

【1】

$$\vec{AC} = 3\vec{AB} \text{ であるから, } \vec{OC} - \vec{OA} = 3(\vec{OB} - \vec{OA})$$

$$\text{よって, } \vec{OC} = -2\vec{OA} + 3\vec{OB}$$

【2】

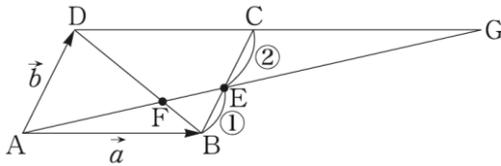
$$s(\vec{a} + 3\vec{b}) + t(-2\vec{a} + \vec{b}) = -5\vec{a} - \vec{b} \quad (s - 2t)\vec{a} + (3s + t)\vec{b} = -5\vec{a} - \vec{b}$$

$\vec{a} \neq \vec{0}$, $\vec{b} \neq \vec{0}$, \vec{a} 平行でない \vec{b} より,

$$\begin{cases} s - 2t = -5 \\ 3s + t = -1 \end{cases}$$

よって, $s = -1$, $t = 2$

【3】



$$\vec{AE} = \vec{AB} + \vec{BE} = \vec{a} + \frac{1}{3}\vec{b}$$

$\triangle AFD \sim \triangle EFB$ であり, 相似比は $3 : 1$ であるから, $AF : FE = 3 : 1$ である.

$$\text{よって, } \vec{AF} = \frac{3}{4}\vec{AE} = \frac{3}{4}\left(\vec{a} + \frac{1}{3}\vec{b}\right) = \frac{3}{4}\vec{a} + \frac{1}{4}\vec{b}$$

$\triangle AFB \sim \triangle GFD$ であり, 相似比は $1 : 3$ であるから, $AF : FG = 1 : 3$ である.

$$\text{よって, } \vec{AG} = 4\vec{AF} = 4\left(\frac{3}{4}\vec{a} + \frac{1}{4}\vec{b}\right) = 3\vec{a} + \vec{b}$$

【4】

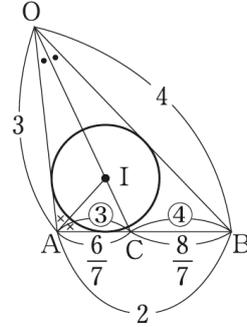
Gは三角形OABの重心なので、 $\vec{OG} = \frac{1}{3}\vec{OA} + \frac{1}{3}\vec{OB}$

直線OIと辺ABの交点をCとすると、直線OCは $\angle AOB$ の二等分線なので、 $AC : CB = 3 : 4$ である。さらに、直線AIは $\angle OAB$ の二等分線なので、

$$OI : IC = AO : AC = 3 : \frac{6}{7} = 7 : 2$$

である。

$$\text{よって、} \vec{OI} = \frac{7}{9}\vec{OC} = \frac{7}{9} \cdot \frac{4\vec{OA} + 3\vec{OB}}{3+4} = \frac{4}{9}\vec{OA} + \frac{1}{3}\vec{OB}$$



【5】

$$(1) \begin{cases} \vec{PA} + 2\vec{PB} + 3\vec{PC} = \vec{0} & \wedge \wedge \textcircled{1} \\ \vec{QA} + \vec{QC} + \vec{QD} = \vec{0} & \wedge \wedge \textcircled{2} \end{cases}$$

$$\textcircled{1} \text{より } -\vec{AP} + 2(\vec{AB} - \vec{AP}) + 3(\vec{AC} - \vec{AP}) = \vec{0}$$

$$\vec{AP} = \frac{2\vec{AB} + 3\vec{AC}}{6} \quad \dots\dots\textcircled{1}'$$

$$\textcircled{2} \text{より } -\vec{AQ} + (\vec{AC} - \vec{AQ}) + (\vec{AD} - \vec{AQ}) = \vec{0}$$

$$\vec{AQ} = \frac{\vec{AC} + \vec{AD}}{3} \quad \dots\dots\textcircled{2}'$$

ここで、 $\vec{AD} = \frac{1}{2}\vec{BC} = \frac{1}{2}(\vec{AC} - \vec{AB})$ であるから、 $\textcircled{2}'$ より

$$\vec{AQ} = \frac{\vec{AC} + \frac{1}{2}(\vec{AC} - \vec{AB})}{3} = \frac{-\vec{AB} + 3\vec{AC}}{6} \quad \dots\dots\textcircled{3}$$

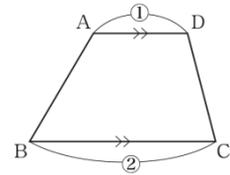
$$\text{ここで、} \textcircled{1}', \textcircled{3} \text{より } \vec{PQ} = \vec{AQ} - \vec{AP} = \frac{-\vec{AB} + 3\vec{AC}}{6} - \frac{2\vec{AB} + 3\vec{AC}}{6} = -\frac{1}{2}\vec{AB} \quad \dots\dots\textcircled{4}$$

が得られるので、 $AB \parallel PQ$ であることが示された。

$$(2) \vec{PD} = \vec{AD} - \vec{AP} = \frac{\vec{AC} - \vec{AB}}{2} - \frac{2\vec{AB} + 3\vec{AC}}{6} = -\frac{5}{6}\vec{AB} \quad \dots\dots\textcircled{5}$$

$$\text{であるから、} \textcircled{4}, \textcircled{5} \text{より、} \vec{PQ} = \frac{3}{5}\vec{PD}$$

が得られるので、3点P, Q, Dは一直線上にあることが示された。



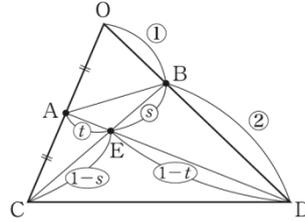
【6】

(1) $AE : ED = t : (1-t)$ より,

$$\vec{OE} = \frac{(1-t)\vec{OA} + t\vec{OD}}{t + (1-t)} = (1-t)\vec{a} + 3t\vec{b} \quad \cdots\cdots\textcircled{1}$$

(2) $BE : EC = s : (1-s)$ より,

$$\vec{OE} = \frac{(1-s)\vec{OB} + s\vec{OC}}{s + (1-s)} = 2s\vec{a} + (1-s)\vec{b} \quad \cdots\cdots\textcircled{2}$$



(3) $\vec{a} \neq \vec{0}$, $\vec{b} \neq \vec{0}$, \vec{a} 平行でない \vec{b} であるから,

$$\textcircled{1}, \textcircled{2} \text{より}, \begin{cases} 1-t = 2s \\ 3t = 1-s \end{cases}$$

このとき, $s = \frac{2}{5}$, $t = \frac{1}{5}$ であるから, $\vec{OE} = \frac{4}{5}\vec{a} + \frac{3}{5}\vec{b}$

【7】

(1) $\triangle OAB = \frac{1}{2} |3 \cdot 5 - 2 \cdot 1| = \frac{13}{2}$

(2) $P(x, y)$ とおくと,

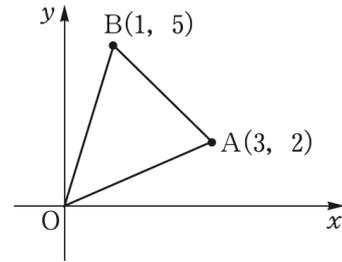
$$\vec{OP} = s\vec{OA} + t\vec{OB}$$

より, $(x, y) = s(3, 2) + t(1, 5)$

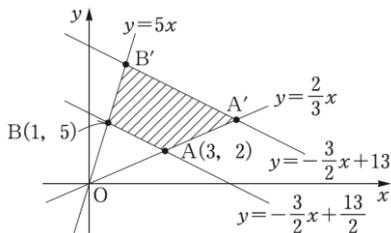
$$\begin{cases} x = 3s + t \\ y = 2s + 5t \end{cases} \text{ であり, これより, } s = \frac{5x - y}{13}, t = \frac{-2x + 3y}{13} \text{ が得られる. このとき,}$$

$$s \geq 0, t \geq 0, 1 \leq s + t \leq 2$$

$$\text{より, } \begin{cases} \frac{5x - y}{13} \geq 0 \\ \frac{-2x + 3y}{13} \geq 0 \\ 1 \leq \frac{3x + 2y}{13} \leq 2 \end{cases} \quad \text{すなわち, } y \leq 5x, y \geq \frac{2}{3}x, -\frac{3}{2}x + \frac{13}{2} \leq y \leq -\frac{3}{2}x + 13$$



であるから, 点 $P(x, y)$ の存在する範囲を図示すると, 次の斜線部分になる.
ただし, 境界線上は含む.



直線 $y = -\frac{3}{2}x + \frac{13}{2}$ と 2直線 $y = \frac{2}{3}x$, $y = 5x$ との交点をそれぞれ A' , B' とすると

$\triangle OAB$ の $\triangle OA'B'$ であり, 相似比は $1:2$ である. よって,

$$\triangle OA'B' = 4 \times \triangle OAB = 4 \times \frac{13}{2} = 26$$

求める点 P の存在する範囲の面積を S とすると, $S = \triangle OA'B' - \triangle OAB = 26 - \frac{13}{2} = \frac{39}{2}$

【8】

$AD \perp BF$ であるから, $\vec{AD} \cdot \vec{BF} = 0$

$AD = 2a$, $BD = \sqrt{3}a$, \vec{AD} と \vec{BD} のなす角は 30° であるから,

$$\vec{AD} \cdot \vec{BD} = |\vec{AD}| |\vec{BD}| \cos 30^\circ = 2a \cdot \sqrt{3}a \cdot \frac{\sqrt{3}}{2} = 3a^2$$

$AD = CF = 2a$, \vec{AD} と \vec{CF} のなす角は 120° であるから,

$$\vec{AD} \cdot \vec{CF} = |\vec{AD}| |\vec{CF}| \cos 120^\circ = 2a \cdot 2a \cdot \left(-\frac{1}{2}\right) = -2a^2$$

【9】

$t\vec{a} + \vec{b} = t(4, -3) + (-5, 2) = (4t - 5, -3t + 2)$ であり, $(t\vec{a} + \vec{b}) \perp \vec{c}$ であるから,

$$(t\vec{a} + \vec{b}) \cdot \vec{c} = 0 \quad (4t - 5, -3t + 2) \cdot (1, 3) = 0 \quad (4t - 5) \cdot 1 + (-3t + 2) \cdot 3 = 0 \quad t = \frac{1}{5}$$

【10】

$\vec{a} + t\vec{b} = (-4, 3) + t(3, 1) = (3t - 4, t + 3)$ であるから,

$$|\vec{a} + t\vec{b}| = \sqrt{(3t - 4)^2 + (t + 3)^2} = \sqrt{10t^2 - 18t + 25} = \sqrt{10\left(t - \frac{9}{10}\right)^2 + \frac{169}{10}} \geq \frac{13}{\sqrt{10}}$$

等号が成り立つのは, $t = \frac{9}{10}$ のときである. よって, $|\vec{a} + t\vec{b}|$ の最小値は $\frac{13}{\sqrt{10}}$ である.

$$\text{さらにこのとき, } t = \frac{9}{10} \text{ であるから, } \left(\vec{a} + \frac{9}{10}\vec{b}\right) \cdot \vec{b} = \left(-\frac{13}{10}, \frac{39}{10}\right) \cdot (3, 1) = -\frac{39}{10} + \frac{39}{10} = 0$$

したがって, $\vec{a} + t\vec{b}$ と \vec{b} のなす角は 90° である.

【11】

$$(1) \quad |\vec{a}-2\vec{b}|=\sqrt{7} \text{ より, } |\vec{a}-2\vec{b}|^2=7 \quad |\vec{a}|^2-4\vec{a}\cdot\vec{b}+4|\vec{b}|^2=7$$

$$|\vec{a}|=3, \quad |\vec{b}|=2 \text{ であるから, } 3^2-4\vec{a}\cdot\vec{b}+4\cdot 2^2=7 \quad \vec{a}\cdot\vec{b}=\frac{9}{2}$$

$$(2) \quad |\vec{a}|=3, \quad |\vec{b}|=2, \quad \vec{a}\cdot\vec{b}=\frac{9}{2} \text{ より,}$$

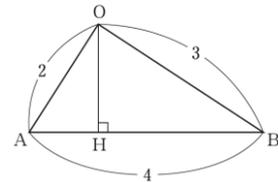
$$\triangle OAB = \frac{1}{2} \sqrt{|\vec{a}|^2|\vec{b}|^2 - (\vec{a}\cdot\vec{b})^2} = \frac{1}{2} \sqrt{3^2 \cdot 2^2 - \left(\frac{9}{2}\right)^2} = \frac{3\sqrt{7}}{4}$$

【12】

$$AH : HB = t : (1-t) \quad (t \text{ は実数})$$

$$\text{とおくと, } \vec{OH} = (1-t)\vec{a} + t\vec{b}$$

と表せる. さらに, $OH \perp AB$ より, $\vec{OH} \cdot \vec{AB} = 0$ であるから,



$$\{(1-t)\vec{a} + t\vec{b}\} \cdot (\vec{b} - \vec{a}) = 0 \quad (t-1)|\vec{a}|^2 - (2t-1)\vec{a}\cdot\vec{b} + t|\vec{b}|^2 = 0 \quad \cdots \cdots \textcircled{1}$$

$$\text{ここで, } AB=4 \text{ より, } |\vec{b}-\vec{a}|=4 \text{ なので, } |\vec{b}-\vec{a}|^2=16 \quad |\vec{b}|^2 - 2\vec{a}\cdot\vec{b} + |\vec{a}|^2=16$$

$$|\vec{a}|=2, \quad |\vec{b}|=3 \text{ より, } 3^2 - 2\vec{a}\cdot\vec{b} + 2^2 = 16 \quad \vec{a}\cdot\vec{b} = -\frac{3}{2}$$

$$\text{であるから, } \textcircled{1} \text{ に代入して, } (t-1) \cdot 2^2 - (2t-1) \cdot \left(-\frac{3}{2}\right) + t \cdot 3^2 = 0 \quad t = \frac{11}{32}$$

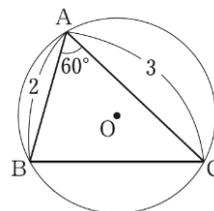
$$\text{よって, } \vec{OH} = \frac{21}{32}\vec{a} + \frac{11}{32}\vec{b}$$

【13】

$|\vec{AO}|=|\vec{BO}|$ より,

$$|\vec{AO}|^2=|\vec{AO}-\vec{AB}|^2=|\vec{AO}|^2-2\vec{AO}\cdot\vec{AB}+|\vec{AB}|^2$$

すなわち, $2\vec{AO}\cdot\vec{AB}=|\vec{AB}|^2$



が得られるので, これより, $2(x\vec{b}+y\vec{c})\cdot\vec{b}=|\vec{b}|^2$ $2x|\vec{b}|^2+2y\vec{b}\cdot\vec{c}=|\vec{b}|^2$ ……①

$|\vec{b}|=2$, $|\vec{c}|=3$ より, $\vec{b}\cdot\vec{c}=|\vec{b}||\vec{c}|\cos 60^\circ=2\cdot 3\cdot \frac{1}{2}=3$ であるから, ①より,

$$4x+3y=2 \quad \text{……①'}$$

同様に, $|\vec{AO}|=|\vec{CO}|$ より, $2\vec{AO}\cdot\vec{AC}=|\vec{AC}|^2$ が得られるので, これより

$$2x+6y=3 \quad \text{……②}$$

①', ②より $x=\frac{1}{6}$, $y=\frac{4}{9}$

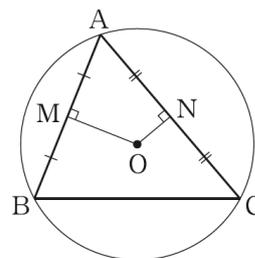
別解

OからAB, ACに下ろした垂線の足をそれぞれM, Nとすると, 外心OはAB, ACの垂直二等分線の交点なので, M, Nはそれぞれ辺AB, ACの中点である.

このことから, $MO\perp AB$ より $\vec{MO}\cdot\vec{AB}=0$ なので,

$$(\vec{AO}-\vec{AM})\cdot\vec{AB}=0$$

$$\left(x\vec{b}+y\vec{c}-\frac{1}{2}\vec{b}\right)\cdot\vec{b}=0 \quad x|\vec{b}|^2+y\vec{b}\cdot\vec{c}=\frac{1}{2}|\vec{b}|^2$$



$|\vec{b}|=2$, $\vec{b}\cdot\vec{c}=3$ より, $4x+3y=2$ ……③

同様に, $NO\perp AC$ より, $2x+6y=3$ ……④

③, ④より $x=\frac{1}{6}$, $y=\frac{4}{9}$

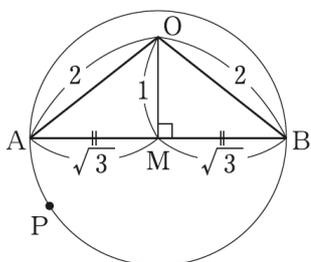
【14】

$$(\vec{p}-\vec{a})\cdot(\vec{p}-\vec{b})=0 \text{ より, } |\vec{p}|^2 -(\vec{a}+\vec{b})\cdot\vec{p}+\vec{a}\cdot\vec{b}=0$$

$$\left|\vec{p}-\frac{\vec{a}+\vec{b}}{2}\right|^2 -\frac{|\vec{a}+\vec{b}|^2}{4}+\vec{a}\cdot\vec{b}=0 \quad \left|\vec{p}-\frac{\vec{a}+\vec{b}}{2}\right|^2 =\frac{|\vec{a}-\vec{b}|^2}{4}$$

$$\left|\vec{p}-\frac{\vec{a}+\vec{b}}{2}\right| =\frac{|\vec{a}-\vec{b}|}{2} =\sqrt{3}$$

となり, $\vec{OA}=\vec{a}$, $\vec{OB}=\vec{b}$, $\vec{OP}=\vec{p}$ とすると, PはABの中点Mを中心とする半径 $\sqrt{3}$ の円周上の点であることがわかる.



これより,

$$(|\vec{p}| \text{の最大値}) = \text{OM} + \text{MP} = 1 + \sqrt{3}$$

$$(|\vec{p}| \text{の最小値}) = \text{MP} - \text{OM} = \sqrt{3} - 1$$

である.